

## 信濃川は日本一の川

信濃川は、はるか遠く、山梨県・埼玉県・長野県にまたがる甲武信ヶ岳(高さ2,475m)から流れ出ます。

- 👉 長さが日本一！ 367km  
新潟ー東京の新幹線の長さと同様です。
- 👉 1年間に流れる水の量が日本一！ 約160億m<sup>3</sup>  
1秒間に流れる量は、25mプールおよそ1杯半になります。

## 信濃川のめぐみ

信濃川の豊かな水は、私たちの暮らしにとっても役立っています。

- ▶ **生活用水** トイレやお風呂、食事などに使います。
- ▶ **かんがい用水** お米などの作物を育てるのに使います。
- ▶ **工業用水** 多くの工場でいろいろな使いみちがされます。
- ▶ **発電用水** 水の力で電気をつくるのに使われます。



## 妙見堰のしごと ②

川は水かさが増えるとあぶなくなります。上流の水力発電所で使いおわたったくさんの水は、堰でいったん受け止めて、あぶくない量を下流へ流します。

信濃川の水でつくった電気で、東京の電車が走っています。朝夕のラッシュ時には発電がさかんになり、使いおわたった水もたくさん信濃川に流されます。

## 妙見堰のしごと ①

川は、ほうっておくと流れる場所が定まらず、私たちの暮らしをおびやかします。昔は、のように流れていた信濃川は、堰によって流れる場所が一定になりました。

## 妙見堰の場所

信濃川のはじまりから、およそ280km。甲武信ヶ岳を出発した水は、4日近くかかって到着します。

## 妙見堰のしごと ③

堰の柱を利用して国道17号の「越の大橋」がかけられ、たくさんのクルマが通っています。

## 妙見堰のしごと ④

**取水口 (水の取り入れ口)**

川に水が少ないときに、生活用水やかんがい用水が足りなくなるのを防ぐため、水をせきとめて取り入れます。

取水口から、生活用水とかんがい用水が供給されています。

浄水場は、川からとった水をきれいにして、生活用水を私たちに届けます。妙見浄水場は、長岡市のおよそ19万人分をまかなっています。

この図は、妙見堰の取水口から、浄水場、越の大橋、そして長岡市街までの水の流れと利用の様子を示しています。田畑へのかんがい用水や、浄水場からの生活用水の供給ルートが明確に描かれています。

福島江用水は、かんがい用水としておよそ7,000ヘクタール(=70km<sup>2</sup>)もの田畑をうるおします。これは長岡市のおとなり、見附市の面積(約78km<sup>2</sup>)に近い広さです。